

## 久慈社会館付属診療所



診療所の建物

盛岡日赤病院と共同で1948年に開設。定期的に盛岡から医師が訪れ診察を行うほか、病院のない集落などを訪問して診療も行ないました。1959年には、産婦人科・外科・内科などを揃えた本格的な病院となりました。

## 頌美小学校・頌美中学校



小学校の朝礼

自発的な学びの環境を整え、豊かな人間性の育成と個性の伸長を目指す少人数（1クラス10人）全人教育が行われました。5年後には、中学校を開校し、小・中一貫した教育体制を整えました。

## アレン国際短期大学



キャンパス内、アレンさんと学生

世界に目を向け、より多くの人とコミュニケーションをとるために英語教育が重要であるという考えのもと、英語英文科・全寮制の短期大学を設立。アレンさんも英語聖書とオーラル・イングリッシュを担当しました。

## アレンさんが築いたもの

### 短期農民福音学校 酪農センター岩手酪農学校



旧大野村に作られた岩手酪農学校



農業機械の導入なども図りました

農民福音学校は、毎年、農閑期の3月に開催して主に酪農を教え、農業の技術革新に寄与しました。

その後、旧大野村の国有地（約30ha）を借り受け、職業訓練校として県の認可を得て頌美学園酪農センター岩手酪農学校を設立。アメリカから乳牛としてジャージー種の導入などを行いました。

同校は、現在の大野デザインセンター周辺に位置し、当時作られたサイロが現在も残っています。

### 静敬洋裁学園



洋裁学校始業前

女性の教育にも力を入れました。

女性が技術を身に付け、自立して、よりよい家庭を築くための洋裁の専門学校を設立。洋裁のほか、たしなみとして料理や美術、茶道や華道なども教えました。

活動の中で出会った母親たち、そしてキリスト教徒であった嵯峨清貴町会議員から、久慈での幼稚園開設を要請されるようになります。当時、久慈を含む九戸地域は、妊産婦や幼児の死亡率が国内トップクラスで最貧困地域のひとつでした。財政的な見通しが立たない中でしたが、寄付を募り資金を集めて移住することを決定。移住した1938年当初は、地元で「幽霊屋敷」と呼ばれていた家屋を借りて開園した久慈幼稚園



上/建設中の久慈幼稚園園舎 右/自転車に乗り、久慈周辺の学校などをまわるアレンさん



でしたが、その後、本町に土地を購入し、園舎の建築などを進めていきます。

### 戦争による無念の帰国

建築資材の不足や慣れない西洋建築を敬遠した大工の不足などの困難があったものの、1940年に現在も使われている園舎が完成。この年は、定員を超える60人以上の児童が入園しました。久慈での活動が順調に進み始めた矢先の1941年12月8日、真珠湾攻撃により太平洋戦争が勃発。アメリカ人のアレンさんは収容所に送られ、一年以上にわたる収容所生活の後、捕虜交換船によってアメリカに帰国することになります。

### 終戦、再び久慈へ…

アレンさんが再び久慈を訪れるのは、終戦から2年後の1947年。ここから本格的に久慈での活動が始まります。

農閑期に専門家を講師に招き、農業に従事する若者に新しい技術を教える農民学校。女性に洋裁技術など

の技術を教える実業学校。不足する医療機関を補うための診療所の開設や孤立する山村・漁村への訪問診療の実施。少人数指導を行う小中学校や高等教育を担う短期大学の開校。時には私財を投げ打ち、この地で生きるための技術や豊かな感性など「どのようにしてより善く生きるのか」を伝えようとしてきました。



卒園式で合唱を披露する久慈幼稚園の園児たち



タマシン・アレンさんは、長内町田高の高台にある墓地に葬られています。墓石の隣には顕彰碑が建てられ、その略歴と信仰詩が刻まれています。

また、隣接するタマシン・アレン記念教会の塔屋には、アレンさんの遺徳をたたえてフランクリン市の有志から贈られた「友好の鐘」が設置されています。

1947年(昭和22) 4月、再来日し、久慈へ来る。精力的な活動を開始する。【57歳】

11月、岩手県立久慈高等学校の英語の教師となる。

1948年(昭和23) 3月、短期農民福音学校を開設する。【1962年閉校】

7月、久慈社会館附属診療所を開設する。【1963年閉鎖】

11月、岩手日報文化賞を受賞する。

1950年(昭和25) 6月、学校法人頌美学園設立し理事長に就任する。【2002年、学校法人東北文化学園大学に併合】

7月、頌美小学校を開校する。【1995年閉校】

1958年(昭和33) 1月、頌美中学校を開校する。【1993年閉校】

7月、頌美学園酪農センター岩手酪農学校(旧大野村)を設立する。【1993年閉鎖】

7月4日、勲五等瑞宝章を授与される。

1959年(昭和34) 3月、母校フランクリン大学から文学博士号の名譽学位を授与される。【69歳】

※シカゴ大学神学部より旧約聖書学教授の招聘を受けるが、日本での伝道の使命を確信し、招聘を断り日本に留まる決意をする。

11月3日、久慈市名誉市民(第2号)に推戴される(第1号は三船久蔵十段)。

1960年(昭和35) 5月、チリ地震津波の被災地、三陸沿岸市町村の救援活動に協力する。

11月、日米修好通商百年記念に功労米人顕彰を受ける。

5月27日、三陸沿岸フェーン現象による火災被害の救済援助に協力する。

1961年(昭和36) エリザベス・アンネー・ヘンプリルが、昭和34年から36年にかけて久慈市でアレンさんを取材し著したタマシン・アレン伝記「TREASURE TO SHARE(たからを分かちて)」がアメリカで2万部出版される。

※ヘンプリルは、アメリカ空軍大佐夫人として昭和34年から3年間東京に在住した。

1965年(昭和40) 9月19日、アメリカ駐日大使ライシャワーが妻ハルと共にアレンさんを訪問する。

※ハル夫人は、アレンさんの活動を財政面で支援した松方正熊の娘で、アメリカ留学後、ジャーナリストとして活躍、ライシャワーと結婚し、アレンさんとは懇意な仲であった。

1968年(昭和43) 10月23日、勲四等瑞宝章を授与される。


1970年(昭和45) 1月、アレン短期大学(後のアレン国際短期大学)を設立し、初代学長に就任する。【80歳】(2005年閉校)

1976年(昭和51) 2月9日、久慈幼稚園の集會中に転倒、大腿骨骨折のため久慈病院に入院後、盛岡の岩手医科大学付属病院に移る。

6月7日午前10時5分、岩手医科大学付属病院で心不全のため逝去。【85歳9ヶ月】

6月22日、久慈幼稚園において葬儀が行われる。

7月17日、久慈市民葬が執り行われる。



タマシン・アレンさんは、長内町田高の高台にある墓地に葬られています。墓石の隣には顕彰碑が建てられ、その略歴と信仰詩が刻まれています。

また、隣接するタマシン・アレン記念教会の塔屋には、アレンさんの遺徳をたたえてフランクリン市の有志から贈られた「友好の鐘」が設置されています。

1947年(昭和22) 4月、再来日し、久慈へ来る。精力的な活動を開始する。【57歳】

11月、岩手県立久慈高等学校の英語の教師となる。

1948年(昭和23) 3月、短期農民福音学校を開設する。【1962年閉校】

7月、久慈社会館附属診療所を開設する。【1963年閉鎖】

11月、岩手日報文化賞を受賞する。

1950年(昭和25) 6月、学校法人頌美学園設立し理事長に就任する。【2002年、学校法人東北文化学園大学に併合】

7月、頌美小学校を開校する。【1995年閉校】

1958年(昭和33) 1月、頌美中学校を開校する。【1993年閉校】

7月、頌美学園酪農センター岩手酪農学校(旧大野村)を設立する。【1993年閉鎖】

7月4日、勲五等瑞宝章を授与される。

1959年(昭和34) 3月、母校フランクリン大学から文学博士号の名譽学位を授与される。【69歳】

※シカゴ大学神学部より旧約聖書学教授の招聘を受けるが、日本での伝道の使命を確信し、招聘を断り日本に留まる決意をする。

11月3日、久慈市名誉市民(第2号)に推戴される(第1号は三船久蔵十段)。

1960年(昭和35) 5月、チリ地震津波の被災地、三陸沿岸市町村の救援活動に協力する。

11月、日米修好通商百年記念に功労米人顕彰を受ける。

5月27日、三陸沿岸フェーン現象による火災被害の救済援助に協力する。

1961年(昭和36) エリザベス・アンネー・ヘンプリルが、昭和34年から36年にかけて久慈市でアレンさんを取材し著したタマシン・アレン伝記「TREASURE TO SHARE(たからを分かちて)」がアメリカで2万部出版される。

※ヘンプリルは、アメリカ空軍大佐夫人として昭和34年から3年間東京に在住した。

1965年(昭和40) 9月19日、アメリカ駐日大使ライシャワーが妻ハルと共にアレンさんを訪問する。

※ハル夫人は、アレンさんの活動を財政面で支援した松方正熊の娘で、アメリカ留学後、ジャーナリストとして活躍、ライシャワーと結婚し、アレンさんとは懇意な仲であった。

1968年(昭和43) 10月23日、勲四等瑞宝章を授与される。

1970年(昭和45) 1月、アレン短期大学(後のアレン国際短期大学)を設立し、初代学長に就任する。【80歳】(2005年閉校)

1976年(昭和51) 2月9日、久慈幼稚園の集會中に転倒、大腿骨骨折のため久慈病院に入院後、盛岡の岩手医科大学付属病院に移る。

6月7日午前10時5分、岩手医科大学付属病院で心不全のため逝去。【85歳9ヶ月】

6月22日、久慈幼稚園において葬儀が行われる。

7月17日、久慈市民葬が執り行われる。